

岐阜大学国際交流 ニューズレター

Newsletter of International Exchange, Gifu University

No.36
2011年3月

新規大学間学術交流協定



▲ カウナス工科大学 (リトアニア)

2010年3月8日学術交流協定締結。
1922年に設立されたリトアニア第二の都市カウナスに位置するバルト三国で最も大規模な工科大学である。工科大学でありながら、経済経営学部、人文学部、社会科学部等の文系の学部も有する文理融合型大学である。



▲ コロラド州立大学 (アメリカ)

2010年8月13日学術交流協定締結。
1870年に設立された伝染病研究、獣医学研究、食品科学等の研究分野において米国内でも有名な総合大学である。緑に囲まれたキャンパスは、治安、自然環境、教育水準などの基準で最も住みやすい地方都市として選ばれているフォートコリンズ市に位置している。



◀ ボゴール農業大学 (インドネシア)

2010年12月2日学術交流協定締結。
1963年に設立されたインドネシアにおける最も古い国立大学のひとつである。キャンパスは西ジャワ州ボゴール市に位置し、特に熱帯農業と生命科学の教育研究において、インドネシアで高い評価を得ており、周辺大学の指導的役割を担っている。

岐阜大学国際戦略本部長から



国際戦略本部長
副学長 (国際戦略担当)

廣田 則夫

国際戦略本部は、「学内の各部局と有機的に連携した国際交流を支援」する組織として設置された「学び、究め、貢献する地域に根ざした国立大学」を理念とする岐阜大学の国際化を一元的に推進するための組織である。教育・研究活動の国際化を通じ、国際性を備えた優れた人材を養成し、国際貢献と同時に地域の国際化に貢献することを目標にしている。

昨年12月、学術交流協定校のひとつであるブラジル・カンピーナス大学との(第8回)国際ワークショップを本学で開催した。

この国際ワークショップは、今後、岐阜大学を中心とした日本国内の数大学およびカンピーナス大学を中心としたブラジル国内の数大学間の連携によるワークショップに発展させていくことが合意された。研究活動の国際化は、動き出せば、それぞれの部局、それぞれの専門分野で着々と進むことが期待できる。また、昨年5月には、主として海外からの研究者向けに国際交流会館C棟の運用が開始され、教育・研究交流の環境が整備されてきている。

学術交流協定校からの「交換留学制度」、「流域水環境リーダー育成プログラム」などを介した留学生教育、人材養成を通じた国際貢献も、それぞれの部局との連携により活発に行われている。これまでの「交流実績」を基に、もう一歩進んだ「新たな交換留学制度」の構築

に向かった検討も進んでいる。

研究の国際化、留学生教育の充実については、スピードの問題は別として望まれる方向に進んでいると確信している。それに対し、本来、国際化・国際交流の主役であるべき日本人学生の動向については懸念されるものがある。「海外に出たがらない若者」は、特に岐阜大学に限った現象ではない。本来「交換留学」は、同数の学生をそれぞれの協定校で1年間程度学ばせる制度であるが、派遣学生数と受け入れ学生数とは、大きな隔りがある。派遣学生数が二桁を超えない状況が続くことについては、効果的な対応を早急にとらねばならないと考えている。サマースクール、短期集中海外研修、交換留学制度、語学研修、いくつかの異文化交流イベント、外国人研究者による講演会など、それぞれにエンカレッジするための努力は為してきているが、これらの努力の方向を戦略的にまとめた形で進めていくことが肝要であると考えている。

携帯電話等に見られる独自の発展は、日本人独特の感性と技術の高さによるものであろう。が、過度な「ガラパゴス化」による「住み心地」の良さは、いずれ世界の流れから「取り残される」結果を生み出すことになる。インターネットなどから入ってくる他人の目を通してデジタル化された現実だけでなく、自分自身の目で様々な人々・世界を見、自分の目がとらえたアナログの現実を通して、これからの世界、これからの日本、これからの岐阜を考える人材が一人でも多く育てて欲しいと願っている。

From International Students



工学研究科博士後期課程
電子情報システム工学専攻1年
グイエン ティエン ドン
NGUYEN TIEN DONG(ベトナム)

「人生とは旅であり、旅とは人生である」

高校生の時、「人生は旅、ぜひどこかに行きたい。」と思いました。

2001年に、「アジアの架け橋」と言うプログラムに参加しました。その時、静岡県にホストファミリーと住んでいました。しかし、18歳未満の私は自由に旅行することができませんでした。2002年に国に帰って、大学に入っても、「もう一度日本に行きたいな。」と思いつけていました。

2007年、ハノイ工科大学を卒業したばかりのとき、すぐ日本に来ました。今回は岐阜大学の留学生になりました。ベトナムの友達から「岐阜はどこ。なぜ岐阜大学を選んだの。」と言う質問をよくされました。ベトナム人は、「日本」と言えば、東京、京都、大阪、名古屋しか知りません。しかし、私にとって、岐阜と岐阜大学が一番理想的な所だと思います。なぜなら、岐阜大学は地方都市にあるので、大学生活に集中できて、勉強のためには、これは最高ではないか。そして、この辺の生活費と家賃は安いですから、旅行のために貯金できます。それに加えて、岐阜は東京と大阪の間ですので、交通も便利です。だから、平日は勉強して、休日

は旅行する。これは最高だと思います。

今まで、本州の広島から新潟まで行きました。一人旅でも団体旅行でも行きました。一人旅のときはあまり有名じゃない所に行き、ゆっくり歩いたり、風景を見たり、写真を撮ったりします。一人旅は私の趣味です。団体旅行なら、友達と遊んだり、しゃべったりも楽しいです。遠い所に行っても、近い所に行っても、初めて行っても、何度目かに行っても、新しいことがいつも見つかります。例えば、金華山と岐阜城は、近いので何度も行きましたが、岐阜の風景は高い所から見ると新しい感じがあります。そして、日本人の友達と話して、いろいろな歴史のことを教わって、面白かったです。

今までの旅行の中で一番よい印象だったのは、岐阜大学の企画でたくさんの留学生と一緒に伊勢に行ったときです。一日徹夜して、次の日、海からの日の出を見ました。そして遊覧船に乗りました。本当に楽しかったです。また、スキー研修もすごく思い出になりました。私は最初全然滑れなくて、何回も、何回も、転びましたが、インストラクターの指導を受けて、だんだんスキーができるようになってうれしかったです。毎年、たくさんの留学生と一緒に旅行ができ、とてもうれしいです。岐阜大学のスタッフの皆様、ありがとうございます。本当に人生とは旅であり、旅とは人生です。(原文のまま)



留学生センター
日本語・日本文化研修コース
オスカル・ブレケル
OSCAR BREKELL(スウェーデン)

「将来への高速道路」

留学といえば、様々な楽しみも苦しみもあるでしょう。新しい出会い、サークルの活動、授業の習い事を味わいながら、言葉の壁やカルチャーショックなどに悩んでいるのは一般的だと思います。自分の国でも人生とはさまざまな感情からなっていますが、外国に行くとそれらの度合いが高まるような気がします。そのような意味で私たち留学生は高速道路を走る運転手と同じように、早いスピードで動いています。ただし、私たちの場合では、ある決まった目的地ではなく、人生の道を進んでいます。

個人にとって新しい文化である日本との交流でも、留学生同士のあいだの生活でも、いずれも「妥協」ということがないとうまく送ることはできません。自分が好ましくないと思うことに対して感情的ではなく、冷静に見ればその意味が少しわかるようになり、結局自分の価値観や考え方も変わる例は少なくないと思います。

もっと軽い話に移りましょう。実は、留学というのはほとんどの場合、面白さ、楽しみ、笑いで溢れていることなんです。授

業のとき、先生たちからの応援や丁寧な説明のお陰で日本語が上達できました。私が入った茶道部の人たちもグループの一員として受け入れてくれました。岐阜の皆様の優しさのお陰で充実した生活を送っています。

最後に、自分にとって岐阜の特にいいところについて話したいと思います。高校のころから日本茶が大好きで、どうしてもそれに関する仕事に携わりたいと思ってきました。岐阜での日本語・日本文化の勉強のお陰で、将来のそのキャリアのために必要な知識を身につけることができます。それだけではなく、周りの人たちの応援まで頂いて大変嬉しいです。どんな志があっても岐阜大学は高速道路の役割をはたし、自分さえその道に従えば円滑にゴールまで着くことができます。しかも、それを大変喜ばしい方法でできます。しかし、残念ながら高速道路の運転と同じように時間も速く経ってしまいます。だからこそ、その充実した時間を大切にしていきたいです。(原文のまま)



International Events

異文化交流 国際戦略本部では、学生、教職員の国際化を図るため、異文化交流を以下のとおり実施しました。

異文化交流① ライブペインティング「めぶき」

4月28日(水)、産官学融合本部インキュベーション施設において、ライブペインティング「めぶき」を実施しました。ライブペインティングとは、音楽に合わせて絵画を描き上げるパフォーマンスです。フランス人墨絵画家のJB氏が屏風絵に虎や龍の墨絵を描くなか、日本人音楽家Iata氏がエスラジヤンタールといった、様々な国の民族楽器を演奏し、異国的な雰囲気に包まれました。



異文化交流② シャンソンコンサート

5月26日(水)、講堂において、アメリカで活動するプロのフランス人歌手であるタンギ・コロネル氏を招いて、全編フランス語による、30曲に及ぶシャンソンコンサートを実施しました。曲目には「オー・シャンゼリゼ」や「雪は降る」など、日本でも馴染みのある曲が含まれており、更に、曲中でコロネル氏がステージから降り、参加者と一緒になって曲を歌うなど、異文化をより近く感じることのできるコンサートとなりました。



フランス人歌手
タンギ・コロネル氏

異文化交流③ タイ 山岳少数民族の若者たち

10月15日(金)、柳戸会館集会ホールにおいて、タイの山岳少数民族の教育支援を行うボランティア団体「さくらプロジェクト」代表の三輪隆氏と、同プロジェクトにより支援を受けているタイ人山岳少数民族の大学生、高校生ら6名を招いて、「タイ 山岳少数民族の若者たち」を実施しました。三輪氏による民族文化についての講演や、山岳民族の学生による伝統的な歌や踊りの実演に加え、写真パネルや、刺繍作品の展示など多岐に渡る異文化紹介が行われました。また、本学で学ぶタイ人留学生の通訳を介して行われた本学の学生と山岳民族の学生による交流も行われました。



タイ伝統舞踊のパフォーマンス

第8回「日本・ブラジルのエネルギー・環境・持続的発展に関する国際ワークショップ」 ーブラジルを知るー

12月17日(金)、大学講堂において、カンピーナス大学(ブラジル、協定大学)との合同主催により、第8回「日本・ブラジルのエネルギー・環境・持続的発展に関する国際ワークショップ」ーブラジルを知るーを実施し、学内外から多くの参加者がありました。このワークショップは、2003年に第1回を開催して以降、毎年、日本とブラジルで交互に行っています。今回は、「ブラジルを知る」をテーマに、エネルギーや環境に関する学術的な内容から、日本とブラジルとの四半世紀の歴史、現状と課題、将来への展望などについての多岐に渡る9つの講演のほか、特別ゲストとして、プロサッカーチームFC岐阜のブラジル人選手の参加がありました。



カンピーナス大学国際部長による講演



FC岐阜のブラジル人選手たち

English Lounge ポットラックパーティ

English Loungeは、長期休業期間を除いて、毎月2回(原則的に第1・第3月曜日の昼休み時間)に開催されています。このEnglish Loungeの初めての試みとして、12月10日(金)に大学会館2階のRepos(ルポ)にて、ポットラックパーティを開催しました。ポットラックパーティは、料理等を持ち寄って行うパーティです。参加者は、これらの料理をきっかけにお互いの国や文化等について英語での会話を楽しみました。このパーティは、今までのEnglish Loungeで培った英語によるコミュニケーション能力を試す良い実践の場となりました。



英語で歓談する学生たち



各自持参の料理

国際交流事業にご協力いただいた団体(2009～2010年)

イビデン株式会社
財団法人井上国際交流基金
エイト工業株式会社
株式会社エヌテック
株式会社大垣共立銀行
西濃華陽観光バス株式会社
河合石灰工業株式会社
岐阜車体工業株式会社
岐阜信用金庫
岐阜乗合自動車株式会社
国際ソロプチミスト岐阜

財団法人国際調和クラブ
サンメッセ株式会社
株式会社十六銀行
株式会社スギヤマメカレト
大日コンサルタント株式会社
太平洋工業株式会社
財団法人田口福寿会
東邦ガス株式会社岐阜営業所
日東興産株式会社北方自動車学校
ハートランス株式会社
三田洞自動車学校

本学の国際交流事業は、上記の企業・団体からのご寄附により賄われております。誌上を借りて、厚くお礼申し上げます。(50音順、敬称略)

そのほか、岐阜ゾンタクラブ、岐阜西ロータリークラブ、岐阜東ロータリークラブ、郡上八幡国際友好協会及び国際交流の輪の黒野の各団体には側面から留学生をサポートいただいております。誌上を借りて厚くお礼申し上げます(50音順、敬称略)

岐阜大学基金(国際交流事業)へのご協力とお願い

岐阜大学における国際交流を充実・発展させるために、岐阜大学基金(国際交流事業)へのご寄附をお願いいたします。寄附申込書を以下の【岐阜大学基金HP】から入手いただき、寄附目的の欄のその他にチェックを入れ、「国際交流事業」と記入いただきますと、本学の国際交流事業への寄附金として取り扱われます。主な国際交流事業として、私費外国人留学生学資援助金、研究者交流助成、短期留学(派遣)奨学金、異文化交流等を行っております。

【岐阜大学基金HP】<http://www.gifu-u.ac.jp/view.rbz?cd=1012>

本学への寄附金は、所得税法第78条第2項第2号及び法人税法第37条第3項第2号に基づき、財務大臣が指定した寄附金(昭和40年4月30日大蔵省告示154号)に該当するもので、所得税上の寄附金控除の対象となる特定寄附金または法人税法上金額損金算入を認められる指定寄附金として指定されています。また、相続、遺贈により財産を取得し、申告期限までに本学に寄贈された場合は、租税特別措置法第70条第1項により、相続税は非課税になっています。

編集:岐阜大学国際戦略本部

事務局 学術国際部国際企画課

TEL: 058-293-3353/ 3350 FAX: 058-293-3209 E-mail: int_exch@gifu-u.ac.jp

国際企画課(留学生支援室)

TEL: 058-293-2139/ 2137 FAX: 058-293-2143 E-mail: direcent@gifu-u.ac.jp

本誌は、岐阜大学ホームページ上で公開しています。

岐阜大学国際交流ニュースレターURL <http://www.gifu-u.ac.jp/view.rbz?nd=250&cd=257>

掲載記事
募集

みなさまからの国際交流に関する記事を募集します。